



不要な `_ui_` オブジェクトの削除



注意

APICの基本GUIを使用して行われた変更を拡張GUIで表示することはできますが、変更を加えることはできません。また、拡張GUIで行われた変更を基本GUIで表示することはできません。基本GUIとNX-OSスタイルのCLIは常に同期されるため、NX-OSスタイルのCLIから行った変更は基本GUIに表示され、基本GUIで行った変更はNX-OSスタイルのCLIに表示されます。ただし拡張GUIとNX-OSスタイルのCLIの間ではこのような同期が行われません。次の例を参照してください。

- 基本GUIモードと拡張GUIモードを混在させないでください。拡張モードを使用して2つのポートにインターフェイスポリシーを適用し、次に基本モードを使用していずれかのポートの設定を変更すると、変更内容が両方のポートに適用される可能性があります。
- APICでインターフェイスごとの設定を行う際に、拡張GUIとCLIを混在させないでください。GUIで行われた設定が、NX-OS CLIでは部分的にしか機能しない可能性があります。

たとえば、GUIの `[Tenants] > [tenant-name] > [Application Profiles] > [application-profile-name] > [Application EPGs] > [EPG-name] > [Static Ports] > [Deploy Static EPG on PC, VPC, or Interface]` でスイッチポートを設定したと仮定します。

次にNX-OSスタイルのCLIで `show running-config` コマンドを使用すると、以下のような出力を受信します。

```
leaf 102
interface ethernet 1/15
switchport trunk allowed vlan 201 tenant t1 application apl epg ep1
exit
exit
```

NX-OSスタイルのCLIでこれらのコマンドを使用してスタティックポートを設定すると、次のエラーが発生します。

```
apic1(config)# leaf 102
apic1(config-leaf)# interface ethernet 1/15
apic1(config-leaf-if)# switchport trunk allowed vlan 201 tenant t1 application apl
epg ep1
No vlan-domain associated to node 102 interface ethernet1/15 encap vlan-201
```

これは、CLIにAPIC GUIでは実行されない検証があることが原因です。`show running-config` コマンドによって出力されたコマンドがNX-OS CLIで機能するためには、VLANドメインが事前に設定されている必要があります。設定の順序はGUIに適用されません。

- 拡張GUIを使用する前に、基本GUIまたはNX-OS CLIによって変更を加えないでください。変更を加えてしまうと、名前の先頭に `_ui_` が付加されたオブジェクトが意図せず作成される場合があります。このオブジェクトは拡張GUIで変更または削除できません。

高度なGUIを使用する前に、基本GUIまたはNX-OS CLIを変更する場合、これは意図せずにオブジェクトが作成され（名前に `_ui_` が付加される）、高度なGUIで変更または削除できなくなる場合があります。

このようなオブジェクトを削除する手順については、[REST APIを使用した不要な `_ui_` オブジェクトの削除 \(3 ページ\)](#) を参照してください。

- [REST APIを使用した不要な `_ui_` オブジェクトの削除 \(3 ページ\)](#)

REST API を使用した不要な `_ui_` オブジェクトの削除

Cisco APIC GUI を使用する前に Cisco NX OS スタイル CLI で変更を行い、名前の先頭に `_ui_` が付加されたオブジェクトが表示された場合は、API に対して次を含む REST API 要求を実行することでこれらのオブジェクトを削除できます。

- クラス名 (例: `infraAccPortGrp`)
- Dn 属性 (例: `dn="uni/infra/funcprof/accportgrp-__ui_l101_eth1--31"`)
- `status="deleted"` に設定したステータス属性

次の手順で API に POST を実行します。

ステップ 1 削除するオブジェクトへの書き込みアクセス権を持つユーザ アカウントにログインします。

ステップ 2 API に次の例のような POST を送信します。

```
POST https://192.168.20.123/api/mo/uni.xml
Payload:<infraAccPortGrp dn="uni/infra/funcprof/accportgrp-__ui_l101_eth1--31" status="deleted"/>
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。